



2015.5.1

5月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

今年度も2ヶ月目に入り、子どもたちはどんな気持ちで幼稚園生活を過ごしているのでしょうか。進級した子どもたちは、少しお兄さん・お姉さんになった気持ちで登園しているでしょう。また、幼稚園のルールやマナーを守らない新入園児に対しては、その接し方で少し悩んでいるかも知れません。そして、ある新入園児にとっては、不安な気持ちが少し和らぎ、幼稚園の楽しさを感じ始めた頃かも知れません。しかしこれとは反対に、最初はわくわくする気持ちだったのに、幼稚園では自分の思い通りにならないこともあることに気づいて少し落ち込んでいる園児がいることも事実です。このように、子どもたち一人ひとりの気持ちも、その育った環境の中での経験や、持って生まれた性格によっても様々です。

また、子ども自身の興味や関心も個々異なるものです。みんなが同じ遊びに興味を示すわけではありませんし、友だちへの興味や関わり方も異なります。しかし、そんなわが子の姿を見て不安を感じているのが親なのかも知れません。わが子が他の子どもと同じように遊ばず、同じように振舞っていない姿を見て、親が同じようにさせようとする子どもはどう感じるでしょうか。自分の気持ちや興味を認めてもらえないことは、子どもにとっては不満であると同時に不安なものだと思います。

「子どもの仕事は遊び」とはよく言われることですが、現代では様々な教育玩具といわれるものが子どもに与えられています。それらは、自ら選び取ったものではなく、親から効率よく効果的に様々な知識などの習得を目指したものとして与えられるものがほとんどです。そして、それらは最終的には や×といった評価が伴うものも多く、その良い評価を受け、親に褒められることが、子どもの目的となっていくます。しかし、やはりそれは子どもにとっては遊びではありません。幼児期の子どもの遊びとは、自分でやってみたいという気持ちから自らが選取り、やってみること、それ自体が目的であるわけです。つまり遊びとは、課題を与えられ、指示されて行動し、その評価を受けることとはまったく異なるわけです。遊びは、それを選ぶことも、またうまく出来た、楽しかったといった評価も、外から与えられるものではなく、子ども自身が自ら考え判断して動き出し、また楽しかった、上手に出来たといった評価も自らが行うものなのです。

それぞれの成長期に、子どもたちの成長に必要な経験を見失うことなく、またその親子の関係もそれぞれの時期にふさわしいものであることが大切です。子ども自身が、一人ひとり持っている力を自らが使って、その時を喜びをもって生きることが出来てこそ、自分の人生を自らの力で歩いていくことが出来る人間として成長していくのだということを忘れないでいたいと思います。

年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」
(マタイによる福音書5章9節)

5月主題 「感じる」

聖句 “初めに、神は天地を創造された。”
(創世記1章1節)